

研究活動報告

(2013年4月～2014年3月)



凡 例

- (1) 現在の研究テーマ
- (2) 著書・論文、その他
- (3) 研究発表・講演など
- (4) 学外集中講義など
- (5) 海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- (6) 科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- (7) 共同研究、受託研究など
- (8) 弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など

○文化財論講座

諸岡道比古

- (1)現在の研究テーマ
- ・ドイツ観念論思想における宗教思想の研究

須藤弘敏

- (1)現在の研究テーマ
- ・仏教絵画史、近世の地方彫刻、文化政策
- (2)著書・論文、その他
- [その他]
- ・須藤弘敏「平尾魯仙の絵画」青森県立郷土館編『平尾魯仙 青森のダ・ヴィンチ』pp.7-8、青森県立郷土館、2013年9月10日
 - ・須藤弘敏「鳳凰堂扉絵、阿弥陀聖衆来迎図、平家納経」ほか8点作品解説『日本美術全集第5巻』小学館、2014年3月
- (3)研究発表・講演など
- ・つがる市公開講座「青森の仏像 つがる市の仏像」2013年10月5日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- ・2013年12月4日～9日、アメリカ合衆国、Metropolitan Museum of Art, New York、鎌倉時代仏画および近世仏像調査のため
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- ・基盤研究 (C)「知恩院蔵阿弥陀二十五菩薩来迎図の研究」(研究代表者) 2011～13年度
 - ・基盤研究 (B)「在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信」(研究分担者) 2013～15年度

杉山祐子

- (1)現在の研究テーマ
- ・アフリカ地方農村の変化を農民によるイノベーション過程として見る、アフリカ農耕民社会におけるグローバル化の進展と「現金の社会化」・ジェンダー、青森県における「近代化」、在来知の研究
- (2)著書・論文、その他
- ・Sugiyama, Yuko 2014 Agrarian Innovation Process and Moral Economy: Embedding Money into the Local Sharing System, Opening Accessibility to Resources, Sugimura (ed.) Proceedings of 6th International Conference on African Moral Economy, Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: from Comparative Perspectives, Fukui Prefectural University, 査読無
 - ・Sugiyama, Yuko 2013 Local Innovation, Communal Resource Management and a Modern Aspect of "Moral Economy", Sugimura (ed.) Proceedings of 5th International Conference on African Moral Economy: Endogenous Development and Moral Economy in Agro-pastoral Communities in Central Tanzania, Fukui Prefectural University pp.72-76, 査読無
 - ・Sugiyama, Yuko 2013 "The Small Village of 'We, the Bemba': The reference Phase that Connects the Daily Life Practice in a Residential Group to the Chiefdom", Kaori Kawai (ed.) Groups, Kyoto University Press.pp.239-260, 査読有
 - ・杉山祐子「『感情』という制度」河合香吏編『制度』京都大学学術出版会、pp.349-370、査読有、2013年
- (3)研究発表・講演など
- ・Sugiyama, Yuko 2013 "Wanna learn Gogo Music? Just do it": Modern Sound Practices in the Gogo Villages, Tanzania. In the 44th Annual conference of Japan Music Education Society Symposium: Weaving Non-European Sound Practices into Music Education in Japan, 弘前大学 (招待)
 - ・Sugiyama, Yuko 2013 Embedding / Re-embedding Cash into the Local Community: Cash economy as a default condition, livelihood strategies and moral economy in Rural Africa, in the 6th International Conference on African Moral Economy, Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa from Comparative Perspectives, ドドマ大学

- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - ・2013年8月 タンザニア
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・基盤研究 (B)「グローバル化するアフリカ農村と現金をめぐる人類学的研究」(研究代表者)
 - ・基盤研究 (A)「アフリカ・モラル・エコノミーを基調とする農村発展に関する比較研究」(研究分担者)
- (7)共同研究、受託研究など
 - ・東京外国語大学 「人類社会の進化的基盤研究(3)」
- (8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など
 - ・日本アフリカ学会創立50周年記念公開セミナー(弘前大学人文学部社会行動コースと共催)。講演者:亀井伸孝氏(愛知県立大学外国語学部・准教授) 2014年2月12日(水)「コートジボワールにおけるろう者・手話言語研究の振興: JICA研修と文化人類学的フィールドワークのコラボレーション」
 - ・日本アフリカ学会創立50周年記念公開セミナー/東北支部会2013年度第1回例会(弘前大学人文学部共催)。2013年6月21日(金) 講演者: Mark Auslander博士(セントラルワシントン大学)、Associate Professor of Anthropology and Museum Studies and Director, Museum of Culture and Environment, Central Washington University 演題: Remembering Slavery in the American South: Art, Architecture, and Contested Narratives

宮坂 朋

- (1)現在の研究テーマ
 - ・古代末期の地中海文化遺産、カタコンベ、初期キリスト教美術
- (2)著書・論文、その他
 - [著書]
 - ・宮坂朋『イタリアの世界遺産を歩く』共著、2013年10月、同成社
 - [論文]
 - ・宮坂朋「キリスト教考古学から古代末期考古学へ」『西洋中世研究』第5号、pp.5-28、単著、2013年12月
- (4)学外集中講義など
 - ・2013年度面接授業「古代ローマの暮らしと美術」放送大学、10月26～27日

山田 巖子

- (1)現在の研究テーマ
 - ・唱導文化、民俗信仰の再文脈化、潜在的な宗教者、オシラ神信仰の「現在」
- (2)著書・論文、その他
 - ・山田巖子「仏教唱導と〈口承〉文化」入間田憲夫・菊地和博編『講座東北の歴史 信仰と芸能』pp.131-154、単著、2014年2月、清文堂
 - ・山田巖子監修、民俗学実習履修学生編『新郷村の民俗誌—青森県三戸郡新郷村—』弘前大学民俗学実習調査報告書Ⅳ、全234頁、共著 2013年10月 弘前大学人文学部民俗学研究室
 - ・山田巖子編『弘前大学人文学部文化財論講座調査報告書Ⅱ 弘前市鬼沢 鬼神社の信仰と民俗』全98頁、共著、2014年3月、弘前大学人文学部文化財論講座
 - ・山田巖子編『映像解説 オシラ神信仰の「現在」』全11頁、共著、2014年3月
 - ・山田巖子編『弘前大学人文学部民俗信仰資料叢書1 オシラ神資料集1』全116頁、共著、2014年3月、弘前大学人文学部民俗学研究室
 - ・山田巖子「交通・交易」青森県史編さん民俗部会編『青森県史 民俗編 資料 津軽』pp.88-99、単著 青森県、2014年3月
 - ・山田巖子「昔話研究のよき入門書 佐々木達司著「おおりの風土と民話」」『東奥日報』第43892号、2013年9月21日、11面(文化欄) 書評
- (3)研究発表・講演など
 - ・山田巖子「『授かるオシラサマ』と〈文脈〉—〈信仰〉が生起する〈場〉をめぐる—」日本民俗学会発表、新潟大学、2013年10月13日
 - ・山田巖子「ことわざの『動き』を捉える—『新語』の発想から—」日本ことわざ文化学会招待講演、明治大学駿河台校舎、2013年5月31日

- ・山田巖子「授かる神々ー津軽におけるオシラ神の奇瑞と靈験ー」日本昔話学会大会招待講演、関西外国語大学、2013年7月6日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・基盤研究 (C)「民俗信仰の再文脈化をめぐるダイナミズム」(研究代表者) 2011～13年度

関根 達人

- (1)現在の研究テーマ
 - ・日本考古学、物質文化研究、石造物研究
- (2)著書・論文、その他
 - [著書]
 - ・関根達人ほか『岩木山を科学する』共著、2014年1月、北方新社
 - [論文]
 - ・関根達人「近世石造物からみた蝦夷地の内国化」『日本考古学』36号、pp.59-84、単著、2013年10月、日本考古学協会
 - ・関根達人「権力の象徴としての大名墓」『季刊考古学』(別冊)20号、pp.4-33、単著、2013年10月、雄山閣
 - ・関根達人「シバチャリから出土した遺物」『北海道考古学』50号、pp.167-174、単著、2014年3月、北海道考古学会
 - ・O.A.Шубина, И.А.Самарин, Т.Сэкинэ, Предметы японского производства XVII - XIX вв. в археологических коллекциях Сахалинского областного краеведческого музея. *Вестник Сахалинского Музея* 20, pp. 99-118. 共著、2013年9月、サハリン州立郷土誌博物館
 - [研究ノート、報告書、その他]
 - ・関根達人「松前藩主松前家墓所」『事典 墓の考古学』p.455、吉川弘文館、単著、2013年6月
 - ・関根達人編『函館・江差の近世墓標と石造物』平成22～25年度科学研究費補助金基盤研究A(課題番号22242024)研究成果報告書、共著、2013年6月、弘前大学人文学部文化財論研究室
 - ・関根達人編『中近世北方交易と蝦夷地の内国化』平成22～25年度科学研究費補助金基盤研究A(課題番号22242024)研究成果報告書、共著、2014年2月
- (3)研究発表・講演など
 - ・関根達人「津軽の縄文時代ー亀ヶ岡文化を中心にー」日本第四紀学会2013年度大会、単独、弘前大学、2013年8月24日
 - ・柴正敏・関根達人「胎土分析から見た亀ヶ岡式土器の製作地ー土器胎土に含まれる火山ガラスの帰属についてー」日本文化材科学会第30回大会、共同、弘前大学、2013年7月6日
 - ・関根達人「サハリン出土の日本製品」公開シンポジウム「中近世北方交易と蝦夷地の内国化」単独、北海道大学、2013年10月6日
 - ・津軽新報社主催津軽情報文化懇話会講演「津軽・松前の飢饉」グリーンパレス松安閣、2013年6月24日
 - ・弘前大学公開講座「考古学からみた本州アイヌの生業と文化」むつ市立図書館、2013年6月30日
 - ・弘前市教育委員会主催堀越城跡歴史講座「考古学からみた堀越城」堀越児童館、2013年9月21日
 - ・日本放射線影響学会第56回大会ランチョンセミナー「縄文文化の実像」ホテルクラウンパレス青森、2013年10月18日
- (4)学外集中講義など
 - ・弘前大学シニアサマーカレッジ「北の縄文人」弘前大学、2013年9月8日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・基盤研究 (A) 一般「中近世北方交易と蝦夷地の内国化」(研究代表者) 平成22～25年度
 - ・基盤研究 (C) 一般「近世日本国家領域境界域における物資流通の比較考古学的研究」(研究分担者) 平成24～26年度
 - ・基盤研究 (C) 一般「北海道・東北を中心とする北方交易圏の理論的枠組み構築のための総合的研究」(研究分担者) 平成25～27年度
- (7)共同研究、受託研究など
 - ・弘前大学「冷温帯地域の遺跡資源の保存活用促進プロジェクト」平成23～27年度
- (8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など

- ・ミニ特別展「八郎湯の縄文から弥生」弘前大学人文学部附属亀ヶ岡文化研究センター、2013年10月25日～11月24日

足 達 薫

- (1)現在の研究テーマ
 - ・イタリア美術史
- (2)著書・論文、その他
 - ・足達薫「記憶術師としての美術家 イタリア・ルネサンスにおける記憶・観念・手法」『西洋美術研究』No.13、pp.50-66、2013年
 - ・足達薫「バルミジャーノの《キリストの埋葬》 マニエリストの二つのヴィジョン」幸福輝責任編集、新藤淳、保井亜弓、青野純子、渡辺晋輔、足達薫、廣川暁生、小針由紀隆『版画の写像学 デューラーからレンブラントへ』pp.151-218、共著、2013年12月15日、ありな書房
- (3)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - ・イタリアでの文献資料調査（2013年9月）
- (4)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・基盤研究（C）「マニエリスムの「時代の眼」：ジュリオ・カミッロの美術論の再構成に基づく」（研究代表者）2010～14年度

上 條 信 彦

- (1)現在の研究テーマ
 - ・先史時代北日本における生業・流通・技術の研究
- (2)著書・論文、その他
 - ・上條信彦「使用痕観察、残存デンプン分析からみた根茎類敲碎用の台石」『物質文化』第93号、物質文化研究会、pp.87-98、2013年
 - ・上條信彦「アイヌ民族の堅臼と堅杵、桶、手杵－形態・使用痕観察と残存デンプン粒分析から－」『東アジア古文化論攷』pp.82-100、2014年
 - ・上條信彦「縄文時代石皿・台石類、磨石・敲石類の検討」『人文社会論叢—人文科学篇』31号、pp.15-39、2014年
 - ・上條信彦「サハリン州立博物館所蔵およびサハリン大学考古学・民族誌研究所蔵の玉類（ガラス製品）について」『中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究』、pp.34-61、2014年
- (3)研究発表・講演など
 - ・田中克典、石川隆二、上條信彦、杉野森淳子「青森県の遺跡で出土したイネ種子遺存体における形態およびDNA分析」日本文化財科学会第30回大会、日本文化財科学会、2013年
 - ・片岡太郎、上條信彦、柴正敏他「青森県板柳町土井1号遺跡出土藍胎漆器の保存科学的研究と素材同定・技術研究の試み」日本文化財科学会第30回大会、2013年
 - ・氏家良博、川村啓一郎、安田創、上條信彦「石油地質学からみた遺跡出土アスファルトの原産地」日本文化財科学会第30回大会、2013年
 - ・堀内晶子、大木伽耶子、宮田佳樹、上條信彦「不備無遺跡から出土した土器はどのように使われたのか：科学の視点から」日本文化財科学会第30回大会、2013年
 - ・Tanaka,K, Kamijo,N 「The transition of agricultural crops in East Asia based on morphological and DNA」The 5th World Conference of the Society of East Asian Archaeology、2013年
 - ・上條信彦、田中克典「イネ種子遺存体の形態分析および史実に基づいたイネの北進の再検討」日本考古学協会2013年度総会、2013年
 - ・上條信彦「脱穀・粉碎具の地域的受容」第3回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム、中国：延辺大学、2013年
 - ・上條信彦「サハリン州立博物館所蔵およびサハリン大学考古学・民族誌研究所蔵の玉類（ガラス製品）について」公開シンポジウム『中近世北方交易と蝦夷地の内国化』北海道大学
 - ・上條信彦「亀ヶ岡文化の生業」青森県考古学会大会、五所川原市市浦コミュニティホール、2013年

- ・上條信彦・佐々木由香・バンダリスダルジャン・松田隆二・杉山真二「白神山地の自然環境の歴史の変遷」シンポジウム『白神山地を学びなおす』弘前大学白神自然環境研究所、2013年
- ・Kamijo Nobuhiko「Stone tools for removing Horse chestnuts (Aesculus turbinata) shells and pounding rhizomes : Use-wear」The 20th Congress of the Indo-Pacific Prehistory Association (IPPA). Siem Reap, Kingdom of Cambodia、2014年
- ・上條信彦「中山遺跡の発掘調査」第9回九州古代種子研究会久留米大会、九州古代種子研究会、久留米市市民会館、2014年
- ・上條信彦「土偶研究事始」土偶研究会八戸大会、八戸市是川縄文館、2014年
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - ・中国延辺大学、カンボジアでの国際学会における研究発表
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・若手研究 (B)「先史時代東日本における食料加工技術の研究」(研究代表者) 2012～14年度
 - ・基盤研究 (B)「北海道噴火湾沿岸の縄文文化の基礎的研究」(研究分担者) 2014～16年度
- (7)共同研究、受託研究など
 - ・古環境研究所・大阪府立弥生文化博物館
 - ・弘前大学「冷温帯地域の遺跡資源の保存活用促進プロジェクト」平成23～27年度
- (8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など
 - ・第30回日本文化財科学会 (センター)
 - ・日本第四紀学会 (センター)
 - ・青森県考古学会 (センター)

○思想文化講座

植木久行

- (1)現在の研究テーマ
 - ・中国古典文学、詩跡研究
- (2)著書・論文、その他
 - [論文]
 - ・植木久行「恵山寺と恵山泉—江蘇・無錫の詩跡考(南朝・唐代を中心に)—」『中国詩文論叢』32集、pp.77-104、単著、2013年12月
 - ・植木久行「唐都長安楽遊原詩考—楽遊原的位置及其意象—」(羅珮瑄訳)『生活園林・中国園林書写与日常生活』(劉苑如主編、中央研究院中国文哲研究所)、pp.127-158、単著、2013年12月
- (3)研究発表・講演など
 - ・植木久行「恵山寺と恵山泉—江蘇・無錫の詩跡考—」科学研究費研究会、弘前大学総合教育棟424教室、2013年9月4日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・基盤研究 (B)「中国文学研究における新たな可能性—詩跡の淵源・江南研究の構築—」(研究代表者) 平成22～25年度

田中岩男

- (1)現在の研究テーマ
 - ・ゲーテ『ファウスト』研究
- (2)著書・論文、その他
 - [その他 (エッセイ)]
 - ・田中岩男「己が或る「利那」に」『Laterne』111号、pp.2-5、単著、2014年2月

李 梁

(1)現在の研究テーマ

- ・近世東アジアの新知識体系の研究、書院・詩跡研究、地域研究

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・李梁「前川國男とモダニズム建築」『人文社会論叢—人文科学篇』第30号、pp.51-69、単著、2013年8月

[その他(翻訳)]

- ・佐々木力著・李梁訳「恩格斯《自然弁証法》構思辯析」中国自然科学院『自然弁証法通訊』第35巻第4期、pp.108-119、単訳、2013年10月

(3)研究発表・講演など

- ・李梁「近世東アジアの伝統「知」とその変容について—比較文化史の視野から—」国立台湾大学人文社会高等研究院主催国際シンポジウム「近代化における東アジアの伝統と新潮流への転換」単独、台湾大学、2013年4月12日～14日
- ・李梁「服部宇之吉：一位鮮為人知的中国近代教育的功勞者」（中国語による発表）、北京大学哲学系、台湾中央研究院近代史研究所共催「2013嚴復：中国与世界国際会議」単独、北京大学、2013年10月11日～14日、
- ・李梁「詩跡としての白鹿洞書院」基盤研究（B）「中国文学研究における新たな可能性—詩跡の淵源・江南研究の構築—」研究会、弘前大学、2013年8月29日
- ・李梁「洪大容の科学理解とその実践について」科研研究会「東アジアにおける科学思想の展開に関する思想的再検討」単独、弘前大学、2014年2月12日～14日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・台湾大学、国際学会参加、研究発表、2013年4月11日～16日
- ・中国江西省景德鎮、三清山三清宮、陶磁器、道觀に関する調査（基盤研究（A）「東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字資料から読み解く」（代表貴志俊彦、京大地域研究統合情報センター教授）による研究協力のための依頼出張、2013年9月9日～13日
- ・大韓民国ソウル、慶尚北道安東市、研究調査及び文献資料蒐集、2013年9月22日～30日
- ・中国北京大学、国際学会参加、研究発表、2013年10月10日～13日
- ・中国北京、江西省、研究調査および文献資料蒐集、2013年10月14日～21日
- ・中国江西省、江蘇省南京、陝西省西安、陶磁器など関係調査、2014年2月25日～3月8日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究（C）「近世東アジアにおける新知識体系とその構築に関する思想文化史的研究」（研究代表者）平成23～26年度
- ・基盤研究（B）「中国文学研究における新たな可能性—詩跡の淵源・江南研究の構築—」（研究分担者）平成23～25年度

(7)共同研究、受託研究など

- ・人間文化研究機構・国際日本文化研究センター共同研究会「「心身」／身心」と「環境」の哲学—東アジアの伝統的概念の再検討とその普遍化の試み—」共同研究員、平成24～26年度

(8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など

[公開講演]（主催、司会および通訳）

- ・戸川芳郎「漢学・シナ学の沿革とその問題点—漢文指導の基礎知識—」弘前大学、2013年6月20日
- ・劉愛軍「20世紀の中国哲学とグローバル問題」、「儒学の伝統とその現代社会における位置づけ」弘前大学、2013年11月27日～28日

今 井 正 浩

(1)現在の研究テーマ

- ・西洋古典学、ヨーロッパ古典文化論、西洋古典古代の医学と同時代の哲学との間の影響関係の解明

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・Masahiro IMAI: Psychological Arguments in the Hippocratic Treatises On the Sacred Disease and Airs, Waters, Places, Japan Studies in Classical Antiquity [=JASCA], Vol.2, pp. 47-66, March 2014.

(3)研究発表・講演

- ・今井正浩「クリュシッポスと初期アレクサンドリアの医学者たち—人体の中樞器官をめぐる論争史の一端—」単独、日本科学史学会・第60回年総会、日本大学商学部、2013年5月25日～26日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・イギリス ケンブリッジ大学古典学部 大英図書館（ロンドン）、文献資料調査・専門研究者との意見交換等、2013年9月21日～28日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究（C）「人体の中樞器官をめぐる論争史をとおしてみた西洋古典古代の人間観の展開に関する実証研究」（研究代表者）平成25～27年度

木村 純二

(1)現在の研究テーマ

- ・日本倫理思想史の通史的研究、伊藤仁斎の倫理思想、和辻哲郎の倫理思想

(2)著書・論文、その他

〔論文〕

- ・木村純二「恋の起源—『古事記』イザナミ神話の意味するもの」『人文社会論叢—人文科学篇』第30号、pp.1-23、2013年8月

(3)研究発表・講演など

- ・「伊藤仁斎における「性」について —「四端の心」を中心に— 基盤研究（A）「東アジアにおける朝鮮儒教に位相に関する研究」研究報告会、都留文科大学、2013年8月30日
- ・「伊藤仁斎の「愛」の思想 —他者と共に生きる—」弘前大学人文学部国際公開講座「日本を知り、世界を知る」弘前大学、2013年10月26日
- ・「和辻哲郎の構想力をめぐって」基盤研究（C）「和辻哲郎による日本倫理思想史および日本文化史研究の総合的再検討」研究報告会、東京大学、2014年3月26日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究（C）「和辻哲郎による日本倫理思想史および日本文化史研究の総合的再検討」（研究代表者）
- ・基盤研究（A）「東アジアにおける朝鮮儒教に位相に関する研究」（研究分担者、代表：島根県立大学・井上厚史）

泉谷 安規

(1)現在の研究テーマ

- ・ジョルジュ・バタイユ、シュルレアリスム、19世紀から20世紀における精神医学とフランス文学との関係

(2)著書・論文、その他

〔翻訳〕

- ・ニコラ・アブラハム、マリア・トローク『表皮と核』共訳、2014年3月、松籟社

(4)学外集中講義など

- ・弘前大学ドリーム講座「フランス語を楽しもう」青森県立青森南高等学校、2013年11月8日

山口 徹

(1)現在の研究テーマ

- ・日本近現代文学、大正期ロマン主義文学についての修辞的研究、1910年代日欧文化情報伝達の調査研究

(2)著書・論文、その他

〔研究ノート、報告書、その他〕

- ・日本近代文学会東北支部『東北近代文学事典』（「内田百閒」（p.72）「森鷗外」（pp.506-507）の項を執筆）、共著、勉誠書店、2013年6月
- ・オンライン版『日本近代文学館所蔵太宰治自筆資料集』解題（旧制中学校・高等学校時代の資料を担当）、共著、雄松堂書店、2014年4月

(3)研究発表・講演など

- ・山口徹「鷗外の伝えたアート・シーン ドキュメンテーションとしての「棕鳥通信」及び全人名索引」第80回研究会アート・ドキュメンテーション学会、単独、文京区立森鷗外記念館、2013年10月27日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究 (C)「森鷗外の訳業を媒体とした1910年代日欧文化情報伝達の調査と分析」(研究代表者) 2013～15年度

横 地 徳 廣

土 井 雅 之

(1)現在の研究テーマ

- ・イギリス文学・文化、シェイクスピアとその時代

(3)研究発表・講演など

- ・土井雅之「『エドワード三世』におけるドラマツルギー」第52回シェイクスピア学会、単独、鹿児島大学、2013年10月5日

○コミュニケーション講座

山 本 秀 樹

(1)現在の研究テーマ

- ・地理情報システム (GIS) による世界諸言語の言語類型地理論的研究、世界諸言語の言語構造地図の作製および分析、言語類型論と言語普遍性研究、人類と言語の系統に関する研究

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・山本秀樹「現生人類単一起源説と言語の系統について」<http://www.1.chiba-u.ac.jp/download/1055/file.pdf>、pp.1-14、単著、2013年12月

(3)研究発表・講演など

- ・山本秀樹「現生人類単一起源説と言語の系統について」千葉大学文学部講演会、千葉大学、2013年11月21日
- ・山本秀樹「日本人にとっての外国語教育～言語学の立場から～」複言語・複文化教育プロジェクト、弘前大学みちのくホール、2013年12月12日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究 (C)「地理情報システムによる世界諸言語の格標示体系の言語類型地理論的研究」(研究代表者) 平成25～27年度

木 村 宣 美

(1)現在の研究テーマ

- ・英語学・言語学 (統語論・意味論)
- ・右方移動現象の分析に基づく併合と線形化のメカニズムの解明

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・木村宣美「右方転移と談話機能」『人文社会論叢—人文科学篇』第30号、pp.1-13、単著、平成25 (2013) 年8月
- ・木村宣美「右方転移文の派生と情報構造」『人文社会論叢—人文科学篇』第31号、pp.1-13、単著、平成26 (2014) 年2月

(4)学外集中講義など

- ・平成25年度 (2013年度) 第2学期面接授業「談話の文法で読み解く英語の語順」放送大学青森学習センター、平成25 (2013) 年12月21日～22日

田 中 一 隆

- (1)現在の研究テーマ
 - ・英国初期近代演劇研究、概念史研究、日英比較文学・文化研究
- (2)著書・論文、その他
[論文]
 - ・Kazutaka Tanaka, "The Multiple Plot Structure of Robert Greene's *Friar Bacon and Friar Bungay*: A New Perspective," *Shakespeare Studies*, 51号, pp.1-20, The Shakespeare Society of Japan, 単著, 2014年3月
- (3)研究発表・講演など
 - ・田中一隆「Henry Medwallの*Fulgens and Lucrece*—劇構造の観点から」第85回日本英文学会全国大会、単独、東北大学、2013年5月26日
 - ・田中一隆「Shakespeareにおけるastrology概念とその翻訳—演劇言語の翻訳について」日本比較文学会第3回北海道支部東北支部共催比較文学研究会、単独、北海道大学、2015年3月29日
 - ・田中一隆、「Shakespeareにおけるastrology概念の概念史的意義について」第15回エリザベス朝研究会、単独、慶應義塾大学、2015年3月8日
- (4)学外集中講義など
 - ・「シェイクスピアと英語文化の伝統」旭川北高等学校、2013年8月27日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・基盤研究 (C) 一般「英国中世・初期近代・近代の文献に現れた占星術概念の歴史の変遷に関する概念史的研究」(研究代表者)平成25～27年度
 - ・基盤研究 (B) 一般「デジタルアーカイブズと英国初期近代演劇研究—劇場、役者、印刷所を繋ぐネットワーク」(研究分担者)平成23～26年度

渡 辺 麻 里 子

- (1)現在の研究テーマ
 - ・日本古典文学、中世仏教説話、文献資料学
- (2)著書・論文、その他
[論文]
 - ・渡辺麻里子「天台仏教と古典文学」『天台学探尋——日本の文化・思想の核心を探る——』単著、pp.273-305、2014年3月
[その他]
 - ・渡辺麻里子「伝忠尋撰『七百科條鈔』の研究」『天台宗報』296号、pp.56-92、2014年3月
- (3)研究発表・講演など
 - ・渡辺麻里子「弘前藩の藩校資料——お殿様の学問と教養——」弘前大学人文学部国際公開講座2013「日本を知り、世界を知る」単独、弘前大学、2013年10月26日
- (4)学外集中講義など
 - ・放送大学集中講義、11月
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・基盤研究 (B) 「宮内庁書陵部所蔵道藏を中心とする明版道藏の研究」(研究分担者・東京大学)平成23～25年度
- (8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など
 - ・弘前大学人文学部国際公開講座2013「日本を知り、世界を知る」弘前大学、2013年10月26日

上 松 一

- (1)現在の研究テーマ
 - ・SLA
- (3)研究発表・講演など
 - ・'Approach and Methods of Teaching English in English'青森教育のつどい2013、単独、プラザホテルむつ、2013年11月3日

奈 蔵 正 之

熊 野 真 規 子

- (1)現在の研究テーマ
 - ・ フランス語教育、映像研究
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - ・ ソウル大学（大韓民国ソウル市）COLLOQUE INTERNATIONAL CONJOINT、SCELLF-SDJF2013参加、2013年10月17日～21日
- (6)科学研究費助成事業
 - ・ 基盤研究（B）「異文化間能力養成のための教材と評価基準の開発およびその有効性の検証」（連携研究者、代表：大木充（京都大学名誉教授））平成25～27年度
- (8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など
 - ・ 複言語・複文化教育プロジェクト・トークセッション：慶應義塾大学教授 國枝孝弘講演：弘前大学、2013年11月22日
 - ・ 複言語・複文化教育プロジェクトシンポジウム：「これでいいのか、大学の外国語教育！」森住衛（桜美林大学教授）、大木充（京都大学名誉教授）、西山教行（京都大学大学院教授）、弘前大学、2013年12月12日

小 野 寺 進

- (1)現在の研究テーマ
 - ・ イギリス文学（小説、物語構造）、イギリス文化
- (2)著書・論文、その他
 - [その他]
 - ・ 小野寺進「学問の行方を考える」『弘前』第415号、p.45、2014年2月
- (4)学外集中講義など
 - ・ 北里大学獣医学部非常勤講師、放送大学客員准教授

ジャンソン・ミッシェル

- (4)学外集中講義など
 - ・ 「基本フランス語Ⅰ」秋田大学・教育文化部、2013年7月31日～8月3日
 - ・ 「フランス語会話・作文（上級）」山形大学・人文学部、2013年8月5日～8日
 - ・ 「基本フランス語Ⅱ」秋田大学・教育文化部、2014年2月12日～14日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - ・ フランス国・ボルドー市、逝去した学生の遺灰を受け取るため、新しい協定書の内容の打ち合わせ、その他、2013年12月4日～11日

楊 天 曦

川 瀬 卓

- (1)現在の研究テーマ
 - ・ 日本語史（語彙史・文法史）、副詞の歴史的研究
- (2)著書・論文、その他
 - [論文]
 - ・ 川瀬卓「日本語副詞の歴史的研究」学位論文、全185頁、単著、2013年8月（2013年8月31日付で九州大学より博士（文学）を授与。なお、同論文により2014年3月25日付で平成25年度九州大学大学院人文科学府長賞（大賞）を受賞。）
- (3)研究発表・講演など

- ・川瀬卓「副詞「どうも」の史的変遷」日本語文法学会第14回大会、単独、早稲田大学、2013年12月1日
- (4)学外集中講義など
 - ・弘前大学ドリーム講座「方言にみることばの変化—東北方言サの謎—」青森県立八戸西高等学校、2013年10月9日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・研究活動スタート支援「不定語と助詞によって構成される副詞の歴史的研究」(研究代表者)平成24～25年度
 - ・基盤研究(C)一般「地方議会議事録の社会言語学的研究—バリエーション研究の事例として—」(研究分担者)平成25～27年度

堀 智 弘

- (1)現在の研究テーマ
 - ・十九世紀アメリカ文学、奴隷制文学
- (2)著書・論文、その他
 - ・堀智弘『アメリカン・ヴァイオレンス—見える暴力・見えない暴力』共著、2013年05月、彩流社
 - ・堀智弘「フレデリック・ダグラスとジョサイア・ヘンソン—十九世紀中葉の「反抗的な奴隷」像に関する一考察—」『人文社会論叢—人文科学篇』30号、pp.15-27、単著、2013年8月

○国際社会講座

CARPENTER, Victor Lee

- (2)著書・論文、その他
 - [その他]
 - ・神田健策・黄孝春・CARPENTER, Victor「農産物の知財マネジメントとりんご生産販売システムの新動向：ピンクレディーの事例を中心に」『2013年度日本農業経済学会報告論文集』日本農業経済学会、pp. 118-124、共著、2013年

PHILIPS, John Edward

- (2)著書・論文、その他
 - [その他]
 - ・John Edward PHILIPS, Japan's deficit in visionary thinking. The Japan Times, 8 Apr. 2013, 単著, 2013年4月 (<http://www.japantimes.co.jp/opinion/2013/04/08/commentary/japans-deficit-in-visionary-thinking/>)

齋 藤 義 彦

- (1)現在の研究テーマ
 - ・ドイツ論
- (2)著書・論文、その他
 - [その他]
 - ・齋藤義彦「キプロス危機とドイツ政治」『青森法政論叢』第14号、pp. 134-146、単著、2013年8月
 - ・齋藤義彦(翻訳)「鉱業、化学、エネルギー産業労働組合第5回定期総会でのアンゲラ・メルケル連邦首相の講演(ハノーファー、2013年10月16日)」『人文社会論叢—社会科学篇』第31号、pp. 131-142、単著、2014年2月

城 本 る み

荷見守義

(1)現在の研究テーマ

- ・中国明代史・東アジア地域史

(2)著書・論文, その他

[論文]

- ・荷見守義「明朝档案を通じて見た明末中朝境界」『人文研紀要』第77号、中央大学人文科学研究所、pp.77-108、単著、2013年9月
- ・荷見守義「『宗藩の海』と被虜人」弘末雅士（編）『越境者の歴史学：奴隷・移住者・混血者』春風社、pp.127-144、単著、2013年12月

(3)研究発表・講演など

- ・荷見守義「倭寇と海防：中華王朝にとって海とはなにか」弘前大学人文学部国際公開講座2013「日本を知り、世界を知る：資料から読み解くアジアの人・心・歴史」単独、2013年10月26日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究（C）「明朝遼東鎮をめぐる官僚人事・政策形成・朝鮮関係の解明」（研究代表者）

(7)共同研究, 受託研究など

- ・中央大学人文科学研究所「档案の世界」研究チーム

(8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など

- ・(3)に同じ

松井 太

(1)現在の研究テーマ

- ・内陸アジア史、古代ウイグル語・モンゴル語文献の歴史学的研究

(2)著書・論文, その他

[論文]

- ・Dai MATSUI, Uigur *kāzig* and the Origin of Taxation Systems in the Uigur Kingdom of Qočo. In: M. Ölmez (ed.), *Festschrift in Honor of Talat Tekin (Türk Dilleri Araştırmaları 18)* [2008], İstanbul: Yıldız Teknik Üniversitesi, pp. 229-242, 単著, 2013年
- ・松井太「敦煌諸石窟のウイグル語題記銘文に関する簡記」『人文社会論叢—人文科学篇』第30号、pp. 29-50、単著、2013年8月
- ・Dai MATSUI, Ürümçi ve Eski Uygurca *Yürüngçin* üzerine. In: H. Şirin User & B. Gül (eds.), *Yalın Kaya Bitigi: Osman Fikri Sertkaya Armağanı*, Ankara: Türk Kültürünü Araştırma Enstitüsü, pp. 427-432, 単著, 2013年12月
- ・Dai MATSUI, Old Uigur Toponyms of the Turfan Oases. In: E. Ragagnin & J. Wilkens (eds.), *Kutadgu Nom Bitig*, Wiesbaden: Harrassowitz, 印刷中, 単著, 2014年

[その他]

- ・松井太「モンゴル時代の東西交易」岡本隆司（編）『中国経済史』名古屋大学出版会、pp. 175-176、単著、2013年11月

(3)研究発表・講演など

- ・松井太「敦煌諸石窟のウイグル語題記銘文」第50回日本アルタイ学会（野尻湖クリルタイ）、単独、野尻湖藤屋旅館、2013年7月13日
- ・松井太「古代ウイグル語の行政文書：税役関係文書を中心に」国際ワークショップ「ユーラシア東部地域における公文書の史的展開：胡漢文書の相互関係を視野に入れて」（基盤研究（A）「シルクロード東部の文字資料と遺跡の調査」研究班・中央ユーラシア学研究会）、単独、大阪大学、2013年9月22日
- ・Dai MATSUI, Dating of the Old Uigur Administrative Orders from Turfan. The 8th International Congress of Turcology, 単独, Istanbul University (Turkey), 2013年10月1日
- ・松井太「ウイグル文献とモンゴル文献」文理融合型東洋写本・版本学講習会「東洋のコディコロジー：非漢字文献」単独、(財)東洋文庫、2013年10月19日
- ・松井太「敦煌莫高窟・榆林窟的回鶻文・蒙古文題記銘文統考」蘭州大学敦煌文献講座、単独、蘭州大学（中華人民共和国）、2013年12月21日

(4)学外集中講義など

- ・北東北三大学単位互換集中講義「歴史学の基礎 (B)」岩手大学、2013年8月27日～8月30日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - ・トルコ共和国 (イスタンブル)、研究発表・資料調査、2013年9月30日～10月12日
 - ・中華人民共和国 (蘭州、敦煌)、講演・資料調査、2013年12月18日～12月25日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・基盤研究 (C)「中央アジア出土古代ウイグル語帳簿資料の基礎的研究」(研究代表者) 平成22～25年度
 - ・三菱財団人文科学研究助成「敦煌石窟の供養人像と諸言語銘文の歴史学・文献学的総合研究」(研究代表者) 2011年10月～2013年8月
 - ・基盤研究 (A)「シルクロード東部の文字資料と遺跡の調査：新たな歴史像と出土史料学の構築に向けて」(研究分担者) 平成22～25年度
- (7)共同研究、受託研究など
 - ・(財) 東洋文庫・内陸アジア研究部門・中央アジア研究班「サントペテルブルグ所蔵古文庫の研究：ウイグル文を中心として」研究班員 (代表：梅村坦)
 - ・(財) トヨタ財団アジア隣人プログラム研究助成プロジェクト「イラン・中国・日本共同によるアルダビール文書を中心としたモンゴル帝国期多言語複合官文書の史料集成」共同研究者 (代表：四日市康博、財団助成期間終了、継続中)
- (8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など
 - ・松井太「シルクロードの仏教巡礼：敦煌の通行手形と落書きから」弘前大学人文学部国際公開講座2013「日本を知り、世界を知る：資料から読み解くアジアの人・心・歴史」単独、弘前大学、2013年10月26日

林 明

- (1)現在の研究テーマ
 - ・ガンディーの思想及び歴史的再評価、ガンディーの思想の継承、スリランカの民族問題
- (2)著書・論文、その他
 - [著書]
 - ・林明・佐藤博美『インド人はなぜ頭が良いのか』colors BOOKS、共著、2014年1月
 - [論文]
 - ・林明「【スリランカ】世界遺産がひしめく美しい島に静かに眠る人々の苦しみ」『地域研究』Vol. 13、No. 2、京都大学地域研究統合情報センター、pp. 368-374、単著、2013年
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - ・インド (デリー、アラーハーバード他)、資料調査、2013年8月20日～9月6日
 - ・スリランカ (コロンボ、ジャフナ他)、資料調査、2014年3月22日～4月6日
- (7)共同研究、受託研究など
 - ・ガンディーと日本の関係についてのThomas Weber氏との共同研究

澤田 真一

- (1)現在の研究テーマ
 - ・ニュージーランド文学、マオリ文学、ポストコロニアル文学
- (2)著書・論文、その他
 - [論文]
 - ・澤田真一「イヒマエラとマンスフィールドによる文学的対話：パール・ボタンの誘拐をめぐるふたつの物語」『南半球評論』29号、pp. 33-45、単著、2013年12月
- (3)研究発表・講演など
 - ・澤田真一「イヒマエラとマンスフィールドによる文学的対話」Katherine Mansfield没後90周年記念大会、単独、日本女子大学、2013年11月9日
 - ・澤田真一「ニュージーランド文学におけるポストコロニアル・アイデンティティの形成」日本ニュージーランド学会第68回研究会、単独、東京外国語大学、2014年3月1日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究 (C) 「ニュージーランド文学におけるポストコロニアル・アイデンティティの形成」(研究代表者) 平成23～25年度

FURHT, Volker Michael

中村 武司

(1)現在の研究テーマ

- ・西洋史、イギリス史・イギリス帝国史、近代ヨーロッパ史

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・中村武司「18世紀のイギリス帝国と「旧き腐敗」：植民地利害の再検討」秋田茂・桃木至朗（編）『グローバルヒストリーと帝国』大阪大学出版会、pp. 135-157、単著、2013年4月

[その他]

- ・キース・ロビンズ（翻訳：中村武司）「イギリス的やり方と目的」、キース・ロビンズ（編）『オックスフォードブリテン諸島の歴史10：20世紀1901～1951年』（日本語版監修：鶴島博和；監訳：秋田茂）、慶應義塾大学出版会、pp. 84-121、単著、2013年8月
- ・パトリック・カール・オブライエン（翻訳：中村武司）「グローバル市民のためのグローバルヒストリー」秋田茂（編）『アジアからみたグローバルヒストリー：「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ』ミネルヴァ書房、pp. 309-332、単著、2013年11月

(3)研究発表・講演など

- ・中村武司「「近世」の世界システムをどう考えるのか」全国歴史教育研究協議会・第54回研究大会、単独、ワークショップ横浜、2013年7月31日

(4)学外集中講義など

- ・出張講義「ヨーロッパとは何か」青森県立青森南高等学校、2013年9月27日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究 (A) 「最新の研究成果にもとづく大学教養課程用世界史教科書の作成」(研究分担者) 平成23～25年度

武井 紀子

(1)現在の研究テーマ

- ・古代日本地方制度研究、出土文字資料研究、日唐律令制比較研究

(2)著書・論文、その他

[その他]

- ・平川南・武井紀子「古代出土文字の画像公開を目指して」『歴博』第180号、国立歴史民俗博物館、pp. 20-23、共著、2013年9月
- ・平川南（編）『古代日本と古代朝鮮の文字文化交流』大修館書店、編集協力、2014年3月

(4)学外集中講義など

- ・2013年度前期非常勤講師「歴史学」国際医療福祉大学、2013年4月～9月

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・韓国慶州市・ソウル市、出土文字資料調査、2013年9月3日～9月7日
- ・中国西安市・北京市、資料調査、2013年11月22日～11月27日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究 (B) 「律令制的人民支配の総合的研究：日唐宋令の比較を中心に」(研究協力者) 平成25～28年度
- ・基盤研究 (A) 「古代における文字文化形成過程の総合的研究」(研究協力者) 平成22～27年度

(7)共同研究、受託研究など

- ・国立歴史民俗博物館・展示プロジェクト「文字がつなぐ：古代の日本列島と朝鮮半島」
- ・国際日本文化研究センター・共同研究「日本的時空間の形成」(代表：吉川真司)、平成25年4月～26年3月、共

同研究員

- ・国文学研究資料館・共同研究「藤原道長の総合的研究：王朝文化の展開を見据えて」（代表：大津透）、平成23年4月～25年3月、共同研究員

○ 情報行動講座

奥野浩子

(1)現在の研究テーマ

- ・日本語、英語、韓国語の比較対照、小学校での外国語教育法/学習法の開発

(2)著書・論文、その他

[その他]

- ・奥野浩子・青森グローバル教育研究会『青森県の小学生への韓国語学習導入の可能性をさぐる』科研費等報告書、共著、2014年2月
- (3)研究発表・講演など
 - ・多田恵実、奥野浩子「小学校児童の2ヶ国語を使った英語教育――ソウル日本人学校と東京韓国学校の児童アンケート調査報告」第13回小学校英語教育学会沖縄大会、共同、琉球大学、2013年7月14日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・挑戦的萌芽研究「青森県の小学校に二つの外国語を導入するための予備的調査研究」（研究代表者）平成23～25年度
- (8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など
 - ・科研費公開研究会「小学生からの外国語学習を効果的にするには？」弘前大学創立50周年記念会館・岩木ホール、2013年6月22日

佐藤和之

(1)現在の研究テーマ

- ・日本語方言の研究

(2)著書・論文、その他

- ・『社会言語学会論文集「ことば」と「考え方」の変化研究：社会言語学の源流を追って』社会言語学会

(3)研究発表・講演など

- ・社会言語学がwelfare linguisticsであること理由一鶴岡調査の根拠と貢献』『社会言語学会論文集「ことば」と「考え方」の変化研究：社会言語学の源流を追って』

作道信介

曾我亨

(1)現在の研究テーマ

- ・東アフリカ牧畜社会の脆弱化する生業基盤と人々の対応

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・曾我亨「生業」松田素二編『アフリカ社会を学ぶ人のために』世界思想社、pp.56-69、2014年、査読無
- ・曾我亨「制度が成立するとき」河合香吏編『制度』京都大学学術出版会、pp.1-18、2013年、査読有
- ・Soga, T.,; Perceivable “Unity”: Between Visible “Group” and Invisible “Category.” In K. Kawai ed. Groups, Kyoto University Press, 2013, pp.219-238、査読無
- (3)研究発表・講演など
 - ・Soga, T.,; Pastoral Identities in East Africa for Surviving Neoliberal Era. A paper presented at the 112th Annual Meeting of

the American Anthropological Association, November 20-24, 2013, Chicago, USA、査読有

- ・曾我亨「難民の生存を可能にする新たな経済活動(2)：南エチオピアにおけるラクダ交易の変化」日本アフリカ学会第50回学術大会、東京大学、2013年5月25日～26日、査読有

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・2013年8月18日～9月19日 エチオピア民主連邦共和国（現地調査）
- ・2014年2月15日～23日 ケニア共和国（JICA「アフリカの角干ばつ対応事業現地視察」）

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究（C）「難民となった牧畜民の生存にかかわる経済活動の人類学的研究」（研究代表者）2010～13年度
- ・基盤研究（A）「アフリカ在来知の生成と共有の場における実践的地域研究」（研究分担者）2011～16年度

(7)共同研究、受託研究など

[共同研究]

- ・東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所共同研究「人類社会の進化史的基盤研究」

[受託研究]

- ・青森県（西北地域県民局）「津軽半島北西部における伝統技術の復元に関する調査研究」

内 海 淳

(1)現在の研究テーマ

- ・ICT利用教育、文書処理

(3)研究発表・講演など

- ・内海淳「全学統一オンライン試験の実施 その展望と課題」2013PCカンファレンス、単独、東京大学、2013年8月5日
- ・内海淳「コンピュータを用いたTOEIC模擬試験の実施」教育改革ICT戦略大会、単独、アルカディア市ヶ谷、2013年9月5日

(4)学外集中講義など

- ・弘前大学ドリーム講座「英語の単語のしくみ」青森県立弘前中央高等学校、2013年8月22日

大 橋 忠 宏

(1)現在の研究テーマ

- ・空港や路線の特性を考慮した国内及び国際航空市場特性の検討、弘前市を含む津軽地方における持続可能な公共交通サービスの設計

(3)研究発表・講演など

- ・大橋忠宏、工藤亮磨「弘前市の公共交通の現状と市内の環状バス利用促進の可能性：城東環状100円バスの場合」2013年度公益事業学会北海道・東北部会、弘前大学、青森県、2013年9月7日
- ・大橋忠宏、工藤亮磨「弘前市の都市内公共交通サービスの現状とバスサービスの改善案：弘前市城東環状100円バスの場合」日本都市学会第60回大会、サンポート高松、香川県、2013年10月26日～27日

(4)学外集中講義など

- ・青森公立大学「地域と情報ネットワーク」
- ・弘前大学ドリーム講座「都市の形成を経済学で考える」青森県立三本木高等学校、2013年7月3日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究（C）「空港・路線の特性を考慮した国内及び国際航空市場の政策評価に関する実証研究」（研究代表者）平成24～27（2012～15）年度

羽 瀧 一 代

(1)現在の研究テーマ

- ・情報化にともなう親密性の変容

(2)著書・論文、その他

- ・羽瀧一代「現代日本の若者の性的被害と恋人からの暴力」『若者の性』白書―第7回青少年の性行動全国調査報告』、

小学館

- ・羽濑一代「メディア利用にみる恋愛・ネットワーク・家族形成」『ケータイの2000年代—成熟するモバイル社会』、東京大学出版会

(3)研究発表・講演など

- ・"Mobile Phone in Turkana, Kenya: Deepening Individualization or Reformulating Complexity of Human Relations?" In The 43rd annual conference of the Canadian Association of African Studies.

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・ボストン大学（米国：2013年5月）
- ・トゥルカナ調査（ケニア共和国：2014年2月～3月）

(8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など

- ・アクティブラーニング報告会「地域の祭や芸能を継承するとはどういうことか—新郷村と佐井村から学ぶ」2014年2月8日

増 山 篤

日比野 愛 子

(1)現在の研究テーマ

- ・科学知・テクノロジーのグループ・ダイナミックス

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・日比野愛子「心理学のアナロジーで見る数値評価の問題」『科学技術社会論研究』第10号、pp.41-51、単著、2013年7月

[研究ノート、報告書、その他]

- ・日比野愛子、山口恵子、塩田朋陽「野田村の声を探る：自由回答分析より」『北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究 野田村のみなさまの暮らしとお仕事に関するアンケート調査報告書』pp.103-122、共著、2013年9月

(3)研究発表・講演

- ・Aiko Hibino, Masato Fukushima「Habitat Segregation of Research Technologies : A Case of Atomic Force Microscopy in Biology」、Asia-Pacific Science, Technology & Society Network Biennial Conference 2013、共同、National University of Singapore, (Singapore)、2013年7月15日
- ・日比野愛子「プロトセルの「生命らしさ」知覚に影響を与える要因」細胞を創る研究会、単独（ポスター発表）、慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス、2013年11月14日
- ・日比野愛子「実験室の中で〈象〉と出会う」質的心理学会質的心理学会フォーラム編集委員会企画シンポジウム「社会のなかで〈社会〉と向き合う」単独、立命館大学、2013年9月

(4)学外集中講義

- ・弘前大学ドリーム講座「ゲームで体験する社会心理学」青森県立野辺地高等学校、2013年8月28日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動

- ・シンガポール、Asia-Pacific Science, Technology & Society Network Biennial Conference 2013参加、2013年7月14日～17日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・若手研究（B）「生命観を彫刻する細胞デザインに関する研究」（研究代表者）平成25～26年度
- ・基盤研究（A）「北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究—社会・経済・法的アプローチ」（研究分担者）平成24～26年度

(7)共同研究、受託研究など

- ・平成25年度弘前大学と弘前市との連携調査研究委託モデル事業「弘前市における若年層の地域移動」（研究代表者）平成25年度
- ・平成25年度青森県西北地域県民局受託研究「津軽半島北西部における伝統技術の復元における調査研究」（研究分担者）平成25年度

栗原由紀子

(1)現在の研究テーマ

- ・統計的マッチングに関する研究、企業の判断情報に関する研究、政府統計マイクロデータの推定精度に関する研究

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・坂田幸繁・栗原由紀子「法人企業統計のデータ・リンケージとその有効性の検証」『中央大学経済研究所年報』第44号、pp.271-306、共著、2013年9月
- ・栗原由紀子「統計的マッチングにおける推定精度とキー変数選択の効果－法人企業統計調査マイクロデータを対象として－」一橋大学ディスカッションペーパー、Series A No.595、pp.1-20、単著、2013年10月
- ・栗原由紀子・坂田幸繁「マイクロデータ分析における調査ウェイトの補正効果－社会生活基本調査・匿名データの利用に向けて－」『人文社会論叢－社会科学篇』第31号、pp.93-113、共著、2014年2月

(3)研究発表・講演など

- ・栗原由紀子「Multiple Imputationによる統計的マッチングの利用可能性について」平成25年度一橋大学経済研究所共同利用共同研究拠点事業プロジェクト研究・研究集会、単独、一橋大学、2013年7月20日
- ・栗原由紀子「法人企業統計調査による統計的マッチングの精度検証」2013年度統計関連学会連合大会、単独、大阪大学、2013年9月9日
- ・栗原由紀子「マイクロデータ分析における調査ウェイトの補正効果について」第57回経済統計学会全国研究大会、単独、静岡市産学交流センター、2013年9月14日
- ・栗原由紀子「企業の判断情報における予測パフォーマンスと予想誤差について」研究集会「マイクロデータから見た我が国の社会・経済の実像」、単独、一橋大学、2014年3月8日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・一橋大学経済研究所共同利用共同研究拠点事業プロジェクト研究「景気変動を踏まえた就業行動と企業の生産性および賃金構造の動態変化に関する計量分析」（共同研究者、代表：中央大学・坂田幸繁）平成25年度

〇ビジネスマネジメント講座

柴田英樹

(1)現在の研究テーマ

- ・粉飾決算研究、国際会計学、近代会計史

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・柴田英樹「粉飾経理発見の実証研究」『人文社会論叢－社会科学篇』第31号、pp.1-9、単著、2014年2月
- ・柴田英樹「青柳会計学から見た粉飾」『人文社会論叢－社会科学篇』第30号、pp.75-91、単著、2013年8月
- ・柴田英樹「統合報告の行方」『弘前大学経済研究』第36号、pp.74-85、単著、2013年12月
- ・柴田英樹「統合報告に関する一考察」『産業経理』第73巻第4号、pp.4-15、単著、2014年1月

(3)研究発表・講演など

- ・柴田英樹「粉飾の発見・防止を総括する」日本会計学研究会第72回全国研究大会、単独、中部大学春日井キャンパス、2013年9月6日

(8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など

- ・弘前大学オープンキャンパス「ディズニーランドはなぜ成長し続けることができるのか」弘前大学総合教育棟キャンパス、2013年8月9日

保田宗良

(1)現在の研究テーマ

- ・健康マーケティングシステム、医薬品流通システム

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・保田宗良「健康マーケティングと医薬品流通業の関わりについての若干の考察」『人文社会論叢—社会科学篇』第30号、pp.127-136、単著、2013年8月
 - ・保田宗良「地域医療の質的向上と健康マーケティングに関する考察」『消費経済研究』第2号、pp.130-141、単著、2013年10月
 - ・保田宗良「地域貢献を意図したアクティブ・ラーニングについての一考察 - 顧客満足の追求 -」『21世紀教育フォーラム』第9号、pp.19-26、単著、2014年3月
- [研究ノート、報告書、その他]
- ・保田宗良「課題解決型学習 - 顧客満足の追求 -」『公共交通を活用した中弘南黒地域活性化の研究』学部戦略経費報告書、pp.53-61、単著、2014年3月
- (3)研究発表・講演など
- ・保田宗良「健康マーケティングと医薬品流通に関する考察」日本消費経済学会東日本大会、単独、日本大学、2013年6月1日
 - ・保田宗良「一般用医薬品のインターネット通販についての考察」地域文化教育学会全国大会、単独、青森公立大学、2013年10月19日
 - ・保田宗良「医療サービスの質的向上と医薬品流通体制」日本消費経済学会全国大会、単独、中央学院大学、2013年10月27日
 - ・保田宗良「医療マーケティングと医薬分業」日本消費経済学会北海道・東北部会研究報告会、単独、北星学園大学、2014年3月29日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- ・基盤研究 (C) 一般「地域医療の質的向上を意図した医薬品流通システムの構築」(研究代表者)平成23～25年度
- (8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など
- ・シンポジウム「公共交通を活用した中弘南黒地域の活性化」弘前商工会議所会館、2014年2月11日

森 樹 男

- (1)現在の研究テーマ
- ・日系多国籍企業の地域統括本社制、北欧の地域活性化モデルと青森県、同人マンガの電子書籍化と海外展開
- (2)著書・論文、その他
- [研究ノート、報告書、その他]
- ・森樹男編『若者の感性を活かした産学官連携ビジネスモデルの構築事業実施報告書』弘前大学人文学部・教育学部、共著、2014年2月
 - ・森樹男編『課題解決型学習と学生の主体的な学び—大学生のチャレンジ2013—報告書』弘前大学人文学部・農学生命科学部、共著、2014年2月
 - ・森樹男編『地域企業と実践する課題解決型学習による主体的な学びプログラムの構築 平成25年度事業実施報告書』弘前大学、共著、2014年3月
- (3)研究発表・講演など
- ・森樹男「グローバル時代の企業経営について」ものづくり経営革新塾(ひろさき産学官連携フォーラム)、弘前市、土手町コミュニケーションプラザ、2013年11月27日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- ・スウェーデン、インタビュー調査、2013年9月2日～8日
 - ・シンガポール、インタビュー調査、2014年3月3日～7日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- ・文部科学省GP「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」(事業実施代表者)平成24～26年度
- (7)共同研究、受託研究など
- ・青森県産業技術センター弘前地域研究所「若者の感性を活かした産学官連携ビジネスモデルの構築事業」2013年10月～2014年2月
- (8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など
- ・弘前大学講演会「課題解決型学習の実践と課題」弘前大学、2013年10月18日
 - ・弘前大学フォーラム「課題解決型学習と学生の主体的な学びⅡ」ベストウェスタンホテルニューシティ弘前、

2013年12月6日

加藤 恵吉

(1)現在の研究テーマ

- ・国際税務会計、無形資産会計、租税制度

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・加藤恵吉・齊藤孝平「試験研究への税額控除制度に対する資本市場の反応」『人文社会論叢—社会科学編』第30号、pp.29-51、共著、2013年8月

[研究ノート、報告書、その他]

- ・H.Ohnuma and K.Kato "Empirical Examination of Market Reaction to Transfer Pricing Taxation"Proceedings of 25th Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues', p.22, Joint work, 2013(November)

(3)研究発表・講演など

- ・H.Ohnuma and K.Kato "Empirical Examination of Market Reaction to Transfer Pricing Taxation"TWENTY-FIFTH ASIAN-PACIFIC CONFERENCE ON INTERNATIONAL ACCOUNTING', Joint Work, GRAND HYATT BALI, INDONESIA, NOVEMBER 12, 2013

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究 (C) 一般「多国籍企業における国際課税要因が資本市場に与える影響について」(研究分担者) 平成23～26年度

岩田 一哲

(1)現在の研究テーマ

- ・過労死・過労自殺を導く心理的要因の考察、産業クラスターコーディネーターに必要な能力の考察

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・岩田一哲「過労自殺のプロセスに関する分析枠組みの提示—ストレス研究との関係から—」『人文社会論叢—社会科学篇』第30号、pp.1-27、単著、2013年8月
- ・岩田一哲「中間管理職における過労自殺の先行要因に関する実証的研究—ストレス研究との関係から—」『日本労務学会誌』第14巻第2号、pp.52-70、単著、2013年8月
- ・金藤正直・岩田一哲「食料産業クラスターを対象としたバランス・スコアカードの適用可能性」『企業会計』平成25年10月号、pp.125-131、共著、2013年10月

(3)研究発表・講演など

- ・岩田一哲「属性別にみた過労自殺とストレスの関係」2013年度日本経営学会第87回大会、単独、関西学院大学、2013年9月5日

(4)学外集中講義など

- ・平成25年度東北地区国立大学法人等補佐研修「職場におけるモチベーションと管理」弘前大学、2013年10月7日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究 (C) 一般「曖昧で突発的な仕事状況に置かれた従業員のストレス並びにその軽減についての解明」(研究代表者) 平成24～26年度
- ・基盤研究 (C) 一般「職位間比較による起業家能力の解明」(研究分担者) 平成23～25年度

(7)共同研究、受託研究など

- ・地域経営政策研究会(産業クラスター研究)

高島 克史

(1)現在の研究テーマ

- ・企業家の認識プロセス、実践としての経営戦略

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・高島克史「企業家行動と新しさゆえの脆弱性」『人文社会論叢—社会科学篇』第31号、pp.11-25、単著、2014年2月

(3)研究発表・講演など

- ・高島克史「弘前大学の地域人材育成への取組」第2回インキュベーション・マネージャーネットワーク協議会、弘前市、土手町コミュニティパーク、2013年11月22日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・若手研究 (B)「企業家の認識・解釈プロセスをふまえたベンチャー企業事業化プロセスの体系化研究」(研究代表者)平成25～27年度

内藤 周子

(1)現在の研究テーマ

- ・会計学、財務会計論、国際財務報告論

(2)著書・論文、その他

[著書]

- ・内藤周子『財務会計』共著、2014年2月、新世社

[論文]

- ・内藤周子「地域伝統食品の統制と保護～フランスにおけるAOC/AOPの取組み～」『れちおん青森』第35巻第419号、pp.15-19、共著、2013年10月

- ・内藤周子「Edwards & Bell学説における利益構成要素の分解」『弘前大学経済研究』第36号、pp.39-49、単著、2013年12月

(3)研究発表・講演など

- ・コメンテーター「会計主体論からみた新株予約権」(平野智久・福島大学)、日本会計研究学会第84回東北部会、弘前大学、2013年7月27日

(4)学外集中講義など

- ・弘前大学ドリーム講座「会計上のルール of 国際的統一について考える－世界でひとつの会計ルールは正しいか?－」青森県立弘前中央高等学校、2013年8月22日
- ・弘前大学ドリーム講座「企業の業績について考える」青森県立野辺地高等学校、2013年8月28日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・青森学術文化振興財団事業「青森県における六次産業化の取組に関する調査研究」(研究代表者)平成25年度

(8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など

- ・日本会計研究学会第84回東北部会、弘前大学、2013年7月27日

大倉 邦夫

(1)現在の研究テーマ

- ・企業の社会的責任、ソーシャル・ビジネス、戦略的提携

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・大倉邦夫「社会的協働に関する研究の動向」『人文社会論叢—社会科学篇』第31号、pp.27-49、単著、2014年2月

[研究ノート、報告書、その他]

- ・大倉邦夫「ソーシャル・ビジネスによる社会的課題の解決」『青い森しんきん経済レポート』No.420、p.1、単著、2013年11月

- ・森樹男編『若者の感性を活かした産学官連携ビジネスモデルの構築事業実施報告書』弘前大学人文学部・教育学部、共著、2014年2月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・研究活動スタート支援「社会的協働の創出プロセス－繊維産業におけるリサイクル事業を事例として－」(研究代表者)平成24～25年度

恩 田 睦

(1)現在の研究テーマ

- ・経営史、日本経済史、鉄道史

(2)著書・論文、その他

[著書]

- ・篠崎尚夫編著『鉄道と地域の社会経済史』共著、2013年5月、日本経済評論社（第1章:「国鉄明知線の第3セクター転換:モータリゼーションの進展と住民の認識」(小緑一平との共著)、第3章:「遊覧地・長瀬の形成と秩父鉄道」)

[論文]

- ・恩田睦「戦前期弘南鉄道の経営展開と資金問題:昭和初期における鉄道経営」『弘前大学経済研究』第36号、pp.16-38、単著、2013年12月
- ・恩田睦「上武鉄道の設立活動と鉄道実務者」『人文社会論叢—社会科学篇』第31号、pp.115-129、単著、2014年2月

[研究ノート、報告書、その他]

- ・小谷田文彦・恩田睦・ビクター・カーペンター「えちぜん鉄道に対する沿線自治体の支援」『人文社会論叢—社会科学篇』第31号、pp.143-154、共著、2014年2月
- ・恩田睦「調査報告」『2013年度 弘前大学人文学部 学部戦略経費チーム研究報告書』pp.62-67、単著、2014年3月
- ・恩田睦「えちぜん鉄道と経営と地域社会」『2013年度 弘前大学人文学部 学部戦略経費チーム研究報告書』pp.68-82、単著、2014年3月

(3)研究発表・講演など

- ・恩田睦「戦前期秩父鉄道にみる乗合自動車問題」第7回経営史学会東北ワークショップ、東北学院大学、単独、2013年9月14日
- ・恩田睦「弘南鉄道の経営展開と菊池武憲」弘前大学経済学会第38回大会、弘前大学、単独、2013年10月25日

(8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など

- ・シンポジウム「公共交通を活用した中弘南黒地域の活性化」弘前商工会議所会館、2014年2月11日

○経済システム講座

鈴木 和 雄

(1)現在の研究テーマ

- ・接客サービス労働過程の研究、大量生産体制成立期の資本蓄積様式と消費様式の変化

(2)著書・論文、その他

[書評]

- ・鈴木和雄「武田信照著『近代経済思想再考—経済学史点描—』(ロゴス、2013年)」季報『唯物論研究』123号、pp.142-145、単著、2013年5月

[その他]

- ・鈴木和雄「経済理論学会第60回大会(愛媛大学、2012年10月6日～7日)・第2分科会「労働と搾取」報告」『季刊—経済理論』50巻1号、p.89、2013年4月

(3)研究発表・講演など

- ・鈴木和雄「接客労働における3極関係と派生效果」[アジアの新興/成熟経済社会とジェンダー—金融・生産・再生産領域のグローバル化—]プロジェクト、単独、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター、2013年6月2日
- ・鈴木和雄「ホックシールド以後の感情労働論」SGCIME夏季研究会、単独、東京八王子セミナーハウス、2013年8月9日
- ・鈴木和雄「労働過程研究と接客サービス労働研究」日本労働社会学会プレ・シンポジウム、単独、専修大学神田キャンパス、2013年9月7日
- ・鈴木和雄「サービス労働論の理論的課題—労働過程研究と接客労働研究—」シンポジウム「サービス労働の分析」日本労働社会学会第25回大会、単独、東北福祉大学、2013年11月17日

(8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など

- ・第38回弘前大学経済学会大会、弘前大学、2013年10月25日

北 島 誓 子

池 田 憲 隆

(1)現在の研究テーマ

・日本経済史

(2)著書・論文、その他

[書評]

・池田憲隆「書評・横井勝彦・小野塚知二編著『軍拡と武器移転の世界史－兵器はなぜ容易に広まったのか』『経営史学』484号、pp.86-88、単著、2014年3月

細 矢 浩 志

(1)現在の研究テーマ

・EU経済、産業発展論

(2)著書・論文、その他

[論文]

・細矢浩志「スペイン自動車産業の再編と欧州生産ネットワーク」『東北経済学会誌2013年度版』67巻、pp.4-12、単著、2013年12月

(3)研究発表・講演など

・細矢浩志「スペイン自動車産業の再編と欧州生産ネットワーク」東北経済学会第67回大会、単独、東北大学、2013年9月28日

・細矢浩志「欧州自動車産業の生産ネットワークの進化とグローバル競争力の構築」経済理論学会第61回大会、単独、専修大学、2013年10月6日

(4)学外集中講義など

・2013年度前期集中講義「経済政策論（前期）」山形大学、2013年8月1日～6日

・2013年度後期集中講義「経済政策論（後期）」山形大学、2013年12月24日～27日

・弘前大学ドリーム講座「経済学でアベノミクスを考える」八戸西高等学校、2013年10月9日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

・チェコ共和国、工場見学、企業・団体ヒアリング調査、2014年2月23日～26日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

・基盤研究(C)一般「欧州自動車産業の生産ネットワークの形成と展開に関する実証的研究」(研究代表者)平成23～25年度

(8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など

・弘前大学経済学会第38回大会、弘前大学、2013年10月25日

黄 孝 春

(1)現在の研究テーマ

・りんご産業、資源経済(レアアース、鉄鉱石など)

(2)著書・論文、その他

[報告書]

・神田健策・黄孝春・Carpenter, Victor「農産物の知財マネジメントとりんご生産販売システムの新動向－ピンクレディーの事例を中心に－」『2013年度日本農業経済学会報告論文集』pp.118-124、共著、2013年12月

(3)研究発表・講演など

・黄孝春・田中彰・康上賢淑「中国レアアース輸出政策の推移とその帰結」中国経済学会全国大会、共同、京都大学、2013年6月23日

・黄孝春・田中彰・康上賢淑「日中レアアース会議の開催に至った経緯について」日本経営史学会全国大会、共同、龍谷大学、2013年10月26日

- ・康上賢淑・黄孝春・田中彰「アジアのレアアース問題と日中協力」国際アジア共同体学会第7回学術研究大会、共同、福井県立大学、2013年11月2日
- ・田中彰・黄孝春・康上賢淑「レアアース産業と総合商社」経営史学会中部ワークショップ、共同、愛知大学、2013年12月14日
- ・田中彰・黄孝春・康上賢淑「レアアースをめぐる中国の政策と日本の対策」政治経済学・経済史学会近畿部会例会、共同、京都大学、2014年3月29日
- ・黄孝春「中国の生活文化と経済」平成26年度公開講演会（放送大学青森学習センター）、平川市文化会館、2013年9月21日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - ・中国包頭・かん州など、レアアース調査、2013年8月5日～21日
 - ・タイ・マレーシア、りんご市場調査、2013年11月24日～30日
 - ・中国北京・武漢・上海、鉄鉱石貿易調査、2014年2月10日～3月2日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・基盤研究（B）海外学術調査「中国レアアース産業の政策転換とその実施状況に関する調査研究」（研究代表者）平成23～25年度
 - ・基盤研究（C）一般「資源争奪戦時代におけるトランスナショナル企業の比較経営史研究：鉄鉱石の事例」（研究分担者）平成25～27年度

李 永 俊

- (1)現在の研究テーマ
 - ・QOLを重視した災害復興政策、人口減少社会の中で持続可能な地域づくり
- (2)著書・論文、その他
 - [著書]
 - ・李永俊・渥美公秀（監修）、作道信介（編）『東日本大震災からの復興(1)想いを支えに－聴き書き、岩手県九戸郡野田村の震災の記録』2014年2月、弘前大学出版会
 - ・李永俊『チヨクチョンヨン、ウェトナムンガ（地域の若者たち、なぜ移動するのか）（韓国語）』共著・翻訳、2014年3月、パクヨンシヤ
 - [論文]
 - ・Young-Jun Lee, 'Local Employment Development Policies and Practices; Case Studies from Aomori, Japan', Strategy and Challenges of Regional Job Creation - Focused on the Advanced Countries, pp.39-53, 2013年06月
 - [報告書]
 - ・李永俊『野田村のみなさまの暮らしとお仕事に関するアンケート調査報告書』弘前大学人文学部、単著、2013年9月
- (3)研究発表・講演など
 - ・李永俊「チーム・オール弘前の原動力とその可能性：外部支援が移動性向に与える影響について」日本グループダイナミクス学会第60回年次大会、単独、北星学園大学、2013年7月14日
 - ・李永俊「小地域のQOLを重視した復興政策の課題：村民アンケート調査から」日本災害復興学会2013年度大阪大会、単独、関西大学、2013年10月12日
 - ・Lee Young-Jun & Hiroaki Sugiura, 'Empirical research for the reconstruction plan that considers QOL from the Great East Japan Earthquake; A case study of "Team All Hirosaki"', Dealing with Disasters (DwD) with the 4th Conference of the Integrated Disaster Risk Management, Northumbria University, UK, 5 September 2013.
 - ・Atsumi Tomohide & Young-Jun Lee, 'Survivors centered approach toward long-term recovery after the 3.11 earthquake and tsunami: A case of team North Rias', California Sociological Association 24th Annual Meeting 'Social Change: Local and Global', Barkley Marina, California, USA, 8 November 2013.
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・基盤研究（A）一般「北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究－社会・経済・法的アプローチ」（研究代表者）平成24～26年度
- (8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など
 - ・「東日本大震災からの地域復興を考える－先行事例から考える地域復興」弘前市市民文化交流館ホール、2014年3

月10日

- ・第11回雇用政策研究センター国際フォーラム「先行事例から持続可能な地域づくりを学ぶ」弘前大学、2014年2月7日
- ・「学生発未来への挑戦フォーラム」青森市アウガ、2013年12月25日

飯島 裕胤

(1)現在の研究テーマ

- ・企業の経済学、とくに企業買収の経済分析

(3)研究発表・講演など

- ・飯島裕胤「企業買収価格と法制度：幾何的理解とその利用」法と経済学研究会、単独、弘前大学、2014年3月17日

山本 康裕

(1)現在の研究テーマ

- ・長期性資金が経済成長に与える影響について、銀行の産業組織が金融政策及びマクロ経済に与える影響について

(2)著書・論文、その他

[その他]

- ・山本康裕「銀行業の寡占化が金融政策に与える影響」『季刊個人金融』8号(2)、pp.73-80、単著、2013年8月

小谷田 文彦

(1)現在の研究テーマ

- ・産業組織論

(2)著書・論文、その他

[研究ノート]

- ・小谷田文彦・恩田睦・ピクター・カーペンター「えちぜん鉄道に対する沿線自治体の支援」『人文社会論叢—社会科学篇』31号、pp.143-154、共著、2014年2月

(4)学外集中講義など

- ・2013年度放送大学面接授業「初歩からの経済学」放送大学青森学習センター、2013年5月11日～12日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・フィンランド共和国、研究打合せ、2014年3月21日～30日

福田 進治

(1)現在の研究テーマ

- ・リカードの経済理論

(2)著書・論文、その他

[著書]

- ・大坪正一・宮永崇史(編)『環境・地域・エネルギーと原子力開発—青森県の未来を考える—』(第5章「青森県の経済と核燃マネー」担当)、共著、2013年10月、弘前大学出版会

[論文]

- ・下平裕之・福田進治「古典派経済学の普及過程に関するテキストマイニング分析—リカード、ミル、マーティノーを中心に—」『人文社会論叢—社会科学篇』31号、pp.51-66、共著、2014年2月

- ・福田進治「日本のリカード研究—労働価値理論を中心に—」『マルサス学会年報』23号、pp.1-33、単著、2014年3月

[書評]

- ・福田進治「佐藤滋正『リカードウ価格論の展開』日本評論社、2012年」『経済学史研究』55巻2号、pp.128-129、2014年1月

(3)研究発表・講演など

- ・福田進治「日本のリカード研究—労働価値理論を中心に—」第23回マルサス学会大会、単独、北海学園大学、2013年6月29日
- ・Shinji Fukuda, 'Ricardo Studies in Japan: On the Labour Theory of Value', International Ricardo Conference - New Developments on Ricardo and the Ricardian Traditions, Centre Jean Bosco, Lyon, France, 11 September 2013.
- ・Hiroyuki Shimodaira & Shinji Fukuda, 'Popularization of Classical Economics: A Text-mining Analysis on David Ricardo, James Mill and Harriet Martineau', Sendai History of Economic Thought Workshop, Tohoku University, 30 March 2014.

[討論]

- ・小峯敦「『雇用政策』白書（1944）の成立～経済助言の役割」第42回経済思想研究会、山形大学、2013年4月21日
- ・久松太郎「マルサス『人口論』初版における人口動学メカニズム」経済学史学会第77回大会、関西大学、2013年5月26日
- ・中澤信彦「反革命思想と経済学—マルサス『食糧高価論』に関する一考察—」第43回経済思想研究会、東北大学、2013年8月8日
- ・Masatomi Fujimoto, 'J.S.Mill's Demand-Analysis and International Trade', International Ricardo Conference, Meiji University, 18 September 2013.
- ・古谷豊「Steuart on Xenophon's Way and Means」第44回経済思想研究会、東北大学、2013年11月3日
- ・Shunsuke Moroizumi, 'J.S.Mill's Ideas on Minimum Rate of Wages and Standard of Comfort', International Ricardo Conference, Meiji University, 27 March 2014.

(4)学外集中講義など

- ・青森県消費者問題研究会2013年6月定例会「マクロ経済政策の課題—アベノミクスの考察—」県民福祉プラザ、2013年6月22日
- ・消費者教育モデル講座「消費者問題とマクロ経済政策」青森大学、2014年1月29日
- ・消費者教育モデル講座「消費者市民社会の理論と実践」問屋町ビジネススクール、2014年2月12日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・フランス・リヨン市、研究発表他、2013年9月5日～16日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究 (A) 一般「リカードウが経済学に与えた影響とその現代的意義の総合的研究」(研究分担者)平成22～26年度
- ・基盤研究 (B) 一般「経済思想の受容・浸透過程に関する実証研究:人々は経済学をどのように受け入れたか」(研究分担者)平成22～26年度
- ・基盤研究 (C) 一般「日本のリカード研究と欧米のリカード研究の比較検討」(研究代表者)平成22～26年度

金 目 哲 郎

(1)現在の研究テーマ

- ・政府間財政関係、地方財源保障、財政民主主義とナショナルミニマム

(3)研究発表・講演など

- ・金目哲郎「公立小学校の教育条件整備の地域間格差と地方財政措置」日本財政学会第70回大会、単独、慶應義塾大学、2013年10月5日
- ・金目哲郎「公共施設の老朽化問題：財政面からみた論点提示」津軽地域づくり研究会、弘前大学八甲田ホール、2014年1月17日

○公共政策講座

児 山 正 史

(1)現在の研究テーマ

- ・地方自治体の予算編成・行政評価・総合計画、公共サービスの市場（準市場）としての学校選択の効果・影響

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・ 児山正史「愛知県4市のまちづくり指標と行政評価・予算編成（2・完）：自治体行政における社会指標型ベンチマーキングの活用」『人文社会論叢—社会科学篇』30号、pp.53-66、単著、2013年8月
- ・ 児山正史「岡山県倉敷市のまちづくり指標と総合計画策定：自治体行政における社会指標型ベンチマーキングの活用」『人文社会論叢—社会科学篇』30号、pp.67-73、単著、2013年8月
- ・ 児山正史「準市場の優劣論とイギリスの学校選択の質・応答性への効果」『人文社会論叢—社会科学篇』31号、pp.67-91、単著、2014年2月

平野 潔

(1)現在の研究テーマ

- ・ 刑事過失論、裁判員制度、法教育

(2)著書・論文、その他

[研究ノート、報告書、その他]

- ・ 市民の裁判員制度めぐり『裁判員経験者の視点を取り入れた刑罰の再考』2013年

(3)研究発表・講演など

- ・ 宮崎秀一・平野潔「裁判員教育の実践」2013年度日本法学会学術大会ミニシンポジウム②「裁判員裁判と市民社会」共同、青山学院大学、2013年5月11日
- ・ 平野潔・宮崎秀一・飯考行「弘前大学の裁判員制度に関する教育と活動」、シンポジウム「裁判員制度の市民的基盤」共同、弘前大学、2013年4月6日
- ・ 平野潔「企画趣旨と裁判員裁判後の（元）被告人」シンポジウム「受刑者の権利保障と社会復帰に向けて」単独、弘前大学、2013年12月14日

(4)学外集中講義など

- ・ 平成25年度放送大学面接授業「裁判員制度と刑事法」放送大学青森学習センター、2013年6月8日～9日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・ 挑戦的萌芽「市民・裁判員の視点から見た裁判員制度の検証」（研究分担者）平成23～25年度

(8)弘前大学人文学部主催または共催の学会・研究会・講演会など

- ・ シンポジウム「裁判員制度の市民的基盤」弘前大学、2013年4月6日
- ・ シンポジウム「裁判員裁判へのアクセス—より裁判員を務めやすい環境整備に向けて」弘前大学、2013年11月3日
- ・ シンポジウム「受刑者の権利保障と社会復帰に向けて」弘前大学、2013年12月16日

長谷河 亜希子

(1)現在の研究テーマ

- ・ 独占禁止法、フランチャイズ・システムの法規制

(2)著書・論文、その他

- ・ 長谷河亜希子「CPRC研究報告書 カルテル事件における立証手法の検討—状況証拠の活用について—」<http://www.jftc.go.jp/cprc/reports/index.files/cr-0213.pdf>、共著、2013年6月
- ・ 長谷河亜希子「韓国フランチャイズ調査報告と日本のあるべきフランチャイズ法制」消費者法ニュース96号、pp.268-270、単著、2013年7月
- ・ 長谷河亜希子意見書「米国セブン—イレブンの加盟者らによる労働法の適用を訴える訴訟について」https://www.facebook.com/permalink.php?id=1397876703781536&story_fbid=1427027260866480、単著、2013年8月（12月に修正版を提出）
- ・ 長谷河亜希子「米国のフランチャイズ規制とその課題」自由と正義65号、pp.54-58、単著、2014年3月

(3)研究発表・講演など

- ・ 長谷河亜希子「TPP問題」民主主義科学者協会法律部会2013年度学術総会ミニシンポ「Constitutional Changeの現在」単独、神奈川大学（横浜キャンパス）、2013年11月30日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・ 基盤研究（C）「日米におけるフランチャイズ契約規制に関する研究」（研究代表者）平成25～27年度

吉村 顕真

(1)現在の研究テーマ

- ・日米不法行為法の研究、日米救済法の研究、日米相続法の研究

(2)著書・論文、その他

- ・「アメリカ不法行為法における親の民事責任の概況——過失責任原則と被害者救済の関係に着目して——」『青森法政論叢』14号、pp.58-86、単著

(4)学外集中講義など

- ・出張講義、秋田県立中央高校、2013年7月11日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究（A）一般「北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究——社会・経済・法的アプローチ」（研究分担者）平成24～26年度

成田 史子

(1)現在の研究テーマ

- ・ドイツ労働法、日本労働法

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・成田史子「ドイツにおける会社分割時の労働関係の承継ルール」山川隆一編『環境変化の中での労働政策の役割と手法』（労働問題リサーチセンター）pp.59-75、単著、2013年5月
- ・成田史子「企業組織再編 事業（営業）譲渡・会社分割時の労働契約の帰趨を中心に」季刊労働法242号pp.200-216、単著、2013年9月
- ・成田史子「企業組織再編と労働関係の帰趨」日本労働法学会誌122号pp.137-150、単著、2013年10月
- ・成田史子「会社分割と労働契約の承継」土田道夫・山川隆一編Jurist増刊『労働法の争点〔第4版〕』有斐閣、pp.148-149、単著、2014年3月

[書評]

- ・成田史子「毛塚勝利編『事業再構築における労働法の役割』を読んで」季刊労働法243号pp.1103-1105、単著、2013年12月

(3)研究発表・講演など

- ・成田史子「企業組織再編と労働関係の帰趨」東北大学社会法研究会、単独、東北大学、2013年4月20日
- ・成田史子「学会事前報告—企業組織再編と労働関係の帰趨」東京大学労働判例研究会、単独、東京大学、2013年5月10日
- ・成田史子「企業組織再編と労働関係の帰趨-ドイツ法における実体規制・手続規制の分析-」日本労働法学会、単独、鹿児島大学、2013年5月19日
- ・成田史子「ドイツにおける事業譲渡時の労働関係自動移転ルールの形成過程（仮）」労働問題リサーチセンター研究会、単独、東京大学、2013年10月13日
- ・成田史子「ドイツにおける企業組織再編と雇用保障」青森中央学院大学地域マネジメント研究所ビジネスセミナー、単独、青森中央学院大学、2013年11月8日
- ・成田史子「淀川海運事件・東京高判平成25・4・25（労経速2177号16頁）」東京大学労働判例研究会、単独、東京大学、2014年1月10日

(4)学外集中講義など

- ・弘前大学ドリーム講座「大学で学ぶ法律学-労働時間規制について」東奥義塾高校、8月2日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・若手研究（B）「企業組織再編時の労働者保護を目的とした法規範の構築方法」（研究代表者）平成25～27年度
- ・基盤研究（A）一般「北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究」（研究分担者）平成24～26年度

(7)共同研究、受託研究など

- ・労働問題リサーチセンター委託研究「企業行動の変化と労働法政策の課題」（東京大学（主査：山川隆一（東京大学法学部教授）2013年7月～2014年3月）

河合正雄

(1)現在の研究テーマ

- ・受刑者の権利

(2)著書・論文、その他

[著書]

- ・河合正雄「受刑者の社会復帰」宿谷晃弘・宇田川光弘・河合正雄編著『人権Q&Aシリーズ2 ケアと人権』pp.97-102、共著、2013年10月10日、成文堂
- ・河合正雄「受刑者の権利保障—国際人権の可能性」憲法理論研究会編『憲法理論叢書21 変動する社会と憲法』pp.197-208、共著、2013年10月15日、敬文堂

[その他]

- ・河合正雄「日本における国際人権訴訟主要判例一覧(11)」国際人権24号、pp.167-175、単著、2013年10月30日

(3)研究発表・講演など

- ・河合正雄「Dickson v UK」ヨーロッパ人権裁判所判例研究会、単独、2013年7月22日
- ・河合正雄「受刑者選挙権訴訟について—ヨーロッパ人権裁判所の判例法理の視点を中心に」青森法学会、単独、青森県立保健大学、2013年11月10日
- ・河合正雄「[受刑者選挙権訴訟について]のコメント—ヨーロッパ人権裁判所の判例法理の視点から」国際人権法学会、単独、名古屋大学、2013年11月24日
- ・河合正雄「受刑者の権利保障の現状」シンポジウム「受刑者の権利保障と社会復帰に向けて」単独、弘前大学、2013年12月14日
- ・河合正雄「受刑者選挙権訴訟（大阪高判2013年9月27日判例集未搭載）」東北公法判例研究会、単独、東北大学、2013年12月21日
- ・河合正雄「Ezeh and Connors v UK」ヨーロッパ人権裁判所判例研究会、単独、中央大学、2014年3月3日

(4)学外集中講義など

- ・2013年度夏季集中講義「教育と憲法（日本国憲法）」電気通信大学、2014年9月2～4日、17日
- ・弘前大学ドリーム講座「あなたを守る大切な権利—人身の自由」青森南高校、11月8日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・若手研究（B）「国際人権法の視点を採り入れた受刑者の実効的な権利保障に向けて」（研究代表者）平成26～27年度

白石壮一郎

(1)現在の研究テーマ

- ・農村の社会規範の変化、移住・移動者とホーム（故郷）、場所と共同性／公共性、地域社会の再想像、フィールドワーク（社会調査）など

(2)著書・論文、その他

[その他]

- ・白石壮一郎「学振ナイロビ近況—「存続の危機」以降の展開」『アフリカ研究』第82号、pp.35-39、2013年、査読なし

(4)学外集中講義など

- ・神戸大学大学院国際協力研究科「開発社会文化論」、2014年2月

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター（前職）業務：ケニア共和国、南アフリカ共和国など東部および南部アフリカ地域各国における海外事業広報、Global Research Council年次会議（2015年5月、東京）の開催準備会合など
- ・科研費（下記）による出張：ウガンダ共和国農村からケニア共和国開拓農村への移住者への聞き取り調査を実施

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・若手研究（B）「東アフリカにおける非自発的移民のネットワークと新たな地域開発」（研究協力者、代表：内藤直樹）2013～15年度